

28  
2011

特集1 社会のために何かしたい! 身近にできる社会貢献

特集2 DVD鑑賞とインタビュー

私自身の〈性〉を生きる

性の多様性とセクシュアル・マイノリティへの理解

MIW

千代田区男女共同参画センター情報誌

通信



MIWでは、2009年6月の男女共同参画週間に、写真展「きらめきのひと 仕事を拓く」を開催しました。表紙の写真は、ご登場いただいた10人のうちの一人、滝村雅晴さん(パパ料理研究家)です。

「MIW」は千代田区男女共同参画センターの愛称です。MはMan(男性)、IはIntercommunication(情報や意見の交換)、WはWoman(女性)という意味です。男性と女性の間には、いつもI(自分らしさ)と愛(思いやり)をもって、対等な新しいパートナーシップを創造してほしいと願っています。



## 子どもの教育が世界を変える

原 珠美さん (ルーム・トゥ・リード 東京チャプター広報委員会メンバー)  
鈴木一成さん (MIW 運営協議会委員、ルーム・トゥ・リード サポーター)



社会のために何かしたい！

身近にできる社会貢献

### 日本のサポーター達による活動紹介

- ・不要になった本、CD、DVD を提供し、その買取金額を寄付
- ・レストランやバーと提携し、飲食の一部を寄付するイベントを実施
- ・申込み金の一部を寄付するチャリティマラソン大会に参加
- ・化粧品会社と提携したイベントの企画・運営
- ・寄付付き商品の購入

日本での活動に関してはこちらどうぞ。  
<http://roomtoreadjapan.org/>

### ルーム・トゥ・リード

「子どもの教育が世界を変える」という信念のもと、2000年に設立されたNGO(本部:米国)。アジア・アフリカの現地コミュニティ、NGO、政府と提携し、学校や図書館・図書室の建設、現地語書籍の出版・寄贈、女子教育支援プログラムを実施。設立以来、1,442校の学校建設、10,759の図書館・図書室を設立し、510万人以上の子どもたちに教育の機会を提供。2015年までに1,000万人の子どもたちに教育を提供することを目指している。URL <http://www.roomtoread.jp/>

外資系企業に勤務しながら、アジア・アフリカの子どもたちに教育のチャンスを提供しているルーム・トゥ・リードの東京チャプター(ボランティア支部)で活動する原珠美さんに伺いました。聞き手はMIW運営協議会委員で、ルーム・トゥ・リードのサポーターでもある鈴木一成さんです。

**鈴木** 原さんがこの活動に関わるきっかけをお聞かせください。

**原** 私がルーム・トゥ・リードに関わったのは1年程前からです。学生時代から、社会貢献活動に興味がありました。外資系の企業に就職した後、環境保護や子ども支援の団体にボランティア登録をして、時々、活動していました。その後、ルーム・トゥ・リードの設立者ジョン・ウッド氏の『マイクロソフトでは出会えなかった天職』を読んで興味を持ち、ルーム・トゥ・リードのイベントに参加し、ここから自分の得意分野を活かして活動ができるのではと関わるようになったのです。

**鈴木** 具体的にはどんなことをしているのですか？

**原** 寄付を集めるためのコーズマーケティング<sup>※</sup>やイベントを企画・実施して、その収益をルーム・トゥ・リードに

寄付しています。昨年私は、

フラワーアーティストをお招きして、アレンジメントのレクチャーをしてもらうイベントの運営に参画したり、花屋さんとタイアップして売上げの一部を寄付するフラワーギフトの販売をしました。

イベントでは講師依頼、イベント会場の確保、花を提供してくれるスポンサー探し、集客、チラシの作成・配布、当日の進行まで、サポーターが手分けして行います。

**鈴木** ゲストもスポンサーも無償で関わってくれるのですよね。活動の特徴をお聞かせください。

**原** ルーム・トゥ・リードの日本事務所には、職員は一人だけ。東京チャプターの多数のサポーターメンバーがいくつかの委員会に関わり活動しています。

私が所属しているのは広報委員会。他に、ビジネス開発、



原 珠美さん

仏系企業マーケティング部に所属。商品企画・販促宣伝・PRイベント等を担当。自分のスキルと力を社会を良くする活動に活かしたいと思い、ルーム・トゥ・リードに参加。

原さんが企画したイベント「クリスマスフラワーギフト for Room to Read」のチラシ。企業と交渉し、プリザードフラワーの売り上げの10%をルーム・トゥ・リードを通じて、アジア・アフリカの子教育支援に寄付。化粧品会社の協力により、購入者にサンプルセットもプレゼントした。



▼委員会、IT委員会などがあります。イベントや企業とのパートナーシップを通して募金をして資金を集める一方で、広報活動しています。サポーターメンバーは全員無償で関わり、イベント等では必要経費を最小限に抑え、集まった資金のほぼ100%を途上国の教育支援活動に使えるように努めています。

鈴木 今、原さんのように社会のためにやっていくのが基本です。会のために、仕事でのスキルや技術、ネットワークを活かしたい人たちが増えていきますが、ルーム・トゥ・リードは「プロボノ<sup>※2</sup>・集団」的といってもいいですね。原 そうですね。日頃している仕事を活かしている人は多く、広報委員会には、マーケティングやPR関係の仕事をしている人が大勢います。寄付を集めるイベントを自らが中心になって企画・運営するこ



鈴木一成さん

MIW 運営協議会委員。金融関係の企業に勤める傍ら、さまざまな社会貢献活動に関わる。ルーム・トゥ・リードのサポーター。



ルーム・トゥ・リードの支援で学ぶ子どもたち

ともできるし、アシスタント的にチームに関わることもできます。その人それぞれのやり方で活動ができるのがいいですね。鈴木 営利企業では、どうしても利益を優先しますが、仕事ではできないこともプロボノでは可能ですか？原 予算がある営利企業では、ダイナミックな仕事はできませんが、どうしても企業の方針が優先されます。ルーム・トゥ・リードなら、仕事で身に付けたスキルやネットワークを使って、直接的に社会貢献できると思います。とくに、ルーム・トゥ・リードは、「図書室をいくつ」「女の子の何年分の教育支援」(学校に行けない女の子が多いため)と成果がはっきりと見え、やりがいも感じます。鈴木 個人の貢献度をはっきりとした形で表わすやり方は、民間企業が効果を測定する方法と似ていますね。仕事と活動を両立させることはむずかしくありませんか？ 長続きするコツがあれば教えてください。原 私はルーム・トゥ・リードに関わることで、仕事のやり方が変わりました。それまでは、全エネルギーを仕事につき込んで、疲れ果てていました。仕事を、してもしても自分自身に還元されない、す

り減ってしまう感じがしていました。このエネルギーを少しでも社会を良くする方向に使いたいと思って、ルーム・トゥ・リードに関わりました。やり始めると、仕事と社会貢献活動が有機的に結びつき、仕事にも前向きに取り組めるようになってきました。仕事柄、10月から年末にかけてとても忙しくなるので、それ以外の期間に、ルーム・トゥ・リードの活動に参加するようにして、無理せず続けています。鈴木 社会貢献をしたいのなら、寄付のようにお金を出す方法もあり、企業自体がCSR(企業の社会的責任)に取組む仕方もあります。私は企業にいなながらも社会のために役立つ方法を考えているところですので。今後の企画は？原 私は花が好きで、食べることに一人倍興味があるのですが、それらに関わる企画を考えていきたいですね。自分の活動が直接、支援国の子どもたちとつながっている感じがして、とても楽しいです。※1 コーズマーケティング。特定の商品を購入することが環境保護などの社会貢献に結びつくことを訴える販促キャンペーン。※2 プロボノ。「公共善」を表わすラテン語「Pro bono publico」を略した英単語で、日頃従事している仕事でのスキルや時間を提供して社会貢献をすること。

## 笑顔がつながる世界をつくろう —— 村田早耶香さん

(NPO法人かものはしプロジェクト共同代表)



孤児院の子どもたちと



ミシン作業の女性たち

村田早耶香さん●大学生の時にタイとカンボジアに行き、児童買春の状況を知る。何とかしたいと思い、試行錯誤の後、大学3年生の20歳の時に、かものはしプロジェクトを発足。



女性たち、孤児院の子どもたち



### かものはしプロジェクト

カンボジアでの児童買春・人身売買問題を『売る側』『買う側』の両方から防止する支援活動を実施。個人や企業・団体からの寄付と独自事業で支援している。

NPO法人かものはしプロジェクト ☎ 03-6415-7744

URL: <http://www.kamonohashi-project.net>

「かものはしプロジェクト」の共同代表・村田早耶香さんに伺いました。

「かものはしプロジェクト」とは？

カンボジアで児童買春をなくす活動をしています。「かものはしプロジェクト」を始めた2004年当初、アジアの中でも10歳以下の低年齢の子どもの買春が多く、内戦後、法整備が不十分だったのがカンボジアでした。

カンボジアの貧しい農村では、子どもや若い女性がメイドや縫製工場の仕事があるとだまされて都会に連れて行かれ、売春宿に売られています。逃げ出すか、警察の摘発で救出されるか、エイズになって発病するまで、そこで働かされるのです。

具体的な取り組みは？

私たちは、児童買春問題が実際に解決されるよう「子どもを売らない」「子どもを買わない」ための3つの事業をしています。

まず一つは、コミュニティファクトリー事業です。カンボジアの貧困率は18.7%。とくに貧しいタイの国境に近い農村では、土地を売ってしまい農民として働けない、借金を抱えた親が、子どもを売る

現実があります。もし、親たちがお金を自分で稼げれば子どもを売らなくてすむ。だったら、その地域の母親や女性に仕事を提供しようと考え、工房を作りました。そこで、い草のブックカバーや椰子の葉の小物入れなどのハンディクラフト製品を作り、カンボジア国内や日本で販売することにしたのです。現在、その工房に80世帯を受け入れ、売り上げは341万円(2009年)になりました。親たちは生活が成り立ち、子どもは学校へ通えるようになりました。

また、読み書きができず、だまされることもあるため、女性たちに識字教育や貯蓄についての知識を学ぶ教室も開いています。始めてから識字率が50%から90%になりました。

二つ目は孤児院支援です。現在、タイとの国境近くのポイベトの孤児院では、人身売買にあった子どもやドメスティック・バイオレンスの家庭の子ども、ストリートチルドレンなど50人が生活し、教育を受けています。子どもが安全に生活できれば人身売買の危険にあわずにすみます。

一方で、買わない活動も

NGOと国連の調査をかものはしが分析したところでは、カンボジアでの18歳未満の買春被害者は1万5千人と見込まれます。



**かものはしの事業** 子どもを売らせない! 買わせない! ための活動

家族の借金、親が病気やエイズ、食べ物を買うお金がないなどの理由で、家族を支えるために、11、12歳の子どもの体を売られている現実があります。世界にはそのような子どもが数百万人いるといわれています。「かものはしプロジェクト」では、子どもの親たちの経済的自立ができれば、子どもは安心して学校に通えると考え、子どもを売らせないために、①大人に職業訓練と雇用の場を提供するコミュニティファクトリー事業 ②親のいない子どもを保護するための孤児院支援 をしています。また、買う側をなくすために、③警官が法律で取り締まるための訓練へ資金援助 もしています。これらは、活動を支えるサポーターからの寄付金や「かものはしプロジェクト」のIT事業によって支えられています。



女性たちの手作り品

児童買春問題が起こる原因

かものはしの事業

売る側

体を売らざるを得ない環境にある

■原因

【貧困】

- ・親に仕事がない
- ・ストリートチルドレンなど、児童労働をさせられる子どもがいる

買う側

買ってしまう環境がある

■原因

- ・法律（執行力）の不備
- ・低価格による需要
- ・児童性愛者
- ・処女信仰

大人に仕事を提供する!  
コミュニティファクトリー事業

親のいない子どもを保護する!  
孤児院支援

買う側を法律で取り締まる!  
警察訓練支援

資金・技術の投入

みんなの笑顔をつなげる!  
サポーター事業

全事業を支える!  
IT事業



写真：(左から) チャリティイベントに参加する日本の支援者、工房で作っている商品、出荷前の商品の点検中、摘発の訓練をする警官、コミュニティファクトリーで作業の振り返りをする

すためには、子どもを買う人を逮捕し処罰することが最も効果的だといわれています。現在、カンボジア警察とユニセフなどの国際機関が協力して警官の訓練をしています。十分ではありません。そこで私たちは、警察の取締り訓練などのプログラム開発に協力し、資金も支援しています。

活動を始めたきっかけは?

私がアジアの児童買春を知ったのは大学生の時。15歳の女の子が家族のために体を売り、エイズになって20代で死んだ。「学校に行ってみなかった」と言い残してという話でした。一方、自分は親のお金で勉強させてもらい暮らしている。この違いは何だろう。そこで現実を知ろうと、タイやカンボジアを訪れたのです。現地地知ったのは、11歳や12歳の女の子までが買春の被害にあっている現実でした。「こんな小さな子までがなぜ…」と、どうしようもなく切なく、怒りと悲しみがこみ上げてきました。そして、自分に何が出来るのか、すぐに行動を起こさなければと思ったのです。

日本に戻って児童買春について学び、世界会議に参加し、ボランティア活動を始めました。続ける中で、20歳の時、思いを同じくする仲間やサポーター

ターに支えられながら「かものはしプロジェクト」を立ち上げました。私たちは継続して児童買春の問題を解決していくために、ボランティアとしてではなく、給与をもらい仕事として支援できる体制を整備し、社会事業として展開しています。

一般の人たちはどのように「かものはしプロジェクト」の活動に関わることが出来ますか?

現地の活動を支える資金は個人や企業・団体からいただいています。現在、会員数は2500人以上、2009年度には5248万円になりました。関心のある方が参加しやすいようなチャリティイベントやキャンペーンを実施し、そこで支援金を集めています。たとえば、カンボジアの料理を作って食べるイベント(写真・一番左)やチャリティライブなど。関心のある方はぜひ、HPをご覧ください。

児童買春・人身売買問題を解決することで、すべての子どもや若者が未来の希望が持てる社会を実現したい。思い続け、伝え続け、行動し続ければ実現すると思います。もし、社会のために何かを思ったら、できることから始めてください。

# 私自身の性 **性** を生きる

## 性の多様性とセクシュアル・マイノリティへの理解

ミナ汰さん・宇佐美翔子さん “共生社会をつくる” セクシュアル・マイノリティ全国支援ネットワーク



最近、テレビなどでレズビアン／ゲイ／トランスジェンダーなど（LGBTI）のことは耳にしますが、身体の性と自分が感じる性に違和感を覚える人、同性を好きになる人など、性の悩みを言えずに苦しみ、生きづらさを感じているセクシュアル・マイノリティ（性的な少数派）への理解はまだです。

今回MIWでは、ゲストに当事者のミナ汰さんと宇佐美翔子さんをお迎えし、DVD『セクシュアル・マイノリティ理解のために』を観ながら、セクシュアル・マイノリティや性の多様性についてお話を伺いました。MIW登録団体等の皆さんにもご参加いただきました。

◆DVDのなかで、精神科医が「50人に一人は、セクシュアル・マイノリティ」と発言していましたが、それは「学校の教室にほぼ一人」の割合です。まだまだ、正しい知識や情報が十分でないことで、セクシュアル・マイノリティの方に対する差別があり、生きづらさを感じている現実があります。

DVDを観て、性のあり様は本当に多様だと気づかされますが、そこにご自身の体験はどのように結びつくのか、お聞かせください。

ミナ汰 私は3人きょうだいの末っ子で、兄や近所の男の子といつも遊んでいました。本名は美奈子ですが、姉から「ミナタ」と呼ばれ、今、その名前を使っています。小さい時

ゲストのお二人も関わって制作したDVDでは、セクシュアル・マイノリティの当事者の声を織り込みながら、人間の性は多様であることを説明しています。まず、セクシュアル・マイノリティと性の多様性を理解するための4つの概念をわかりやすく図解しています。

- 1 身体の性 生物学的な性別。オスかメスかの概念。
- 2 性自認 主観的な性別。自分自身が女か男か、性別を自認する概念。
- 3 性表現 社会的な性別。女らしい見た目か男らしい見た目を問う概念。
- 4 性指向 恋愛感情や性欲がどの性別に向くかの概念。

今の日本では、「身体が女なら、性自認も性表現も女」、「身体が男なら、性自認も性表現も男」。そうした男女が結びつくことが「典型的」だと思われています。

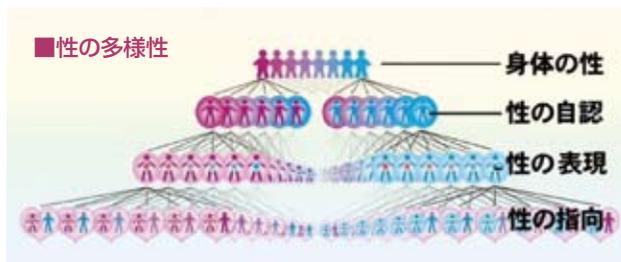
そのようなあり様はマジョリティ（多数派）ではありませんが、身体の性別が典型的でない人、生物学的な性別と自認する性別が違う人、恋愛対象が異性でない人、異性だけではない人、性的な欲求がない人など、セクシュアル・マイノリティ（少数派）と呼ばれる人たちも存在しています。

## DVD『セクシュアル・マイノリティ理解のために』

— 子どもたちの学校生活とところを守る —

**第一部「知る—図解『性』の多様性」** 現在、「性」を考える時に、標準になっている4つの概念、①身体の性 ②性自認 ③性表現 ④性指向 がわかりやすく図解されています。身体の性は男性か女性かだけではありません。生まれた時の性別がはっきりしない人もいて、性分化疾患と呼ばれています。また、身体と心の性は女性だけれど、性表現は男性で、同性を好きになる人もいれば、身体の性が男性で性自認は女性、性表現が女性で、男性も女性も好きになる人もいます。私たちが考える性別、性自認、性表現、性指向は、女性と男性のどちらかだけではなく、その間にある多数のグラデーションからなっていることを説明しています。

現在の社会で多数派と思われる性の規範は、実は多様な性のあり様の一つのパターンなのです。(図参照)。



左(女性)と右(男性)の両端が「典型的」な性のあり様とされている

法律上の性は2つしかありませんが、多様な性を2つに当てはめようとする社会の規範や風習が、セクシュアル・マイノリティの生きづらさの背景にあります。

**第二部「聴く—学校生活とところ」** セクシュアル・マイノリティの当事者自身の生の声が率直に語られています。「ホモ、オカマなどのたわいのないひと言ですたずたに引き裂かれた」「ゲイといわれ集団でいじめられた。親や教師に相談しても自分が悪いと思われ、不登校、引きこもりになった」——親や教師、学校や職場で自分を理解してもらえないつらい体験や、理解してほしいかかった思いなどが語られています。また、専門家の立場から精神科医や、セクシュアル・マイノリティを理解するなかで生徒との関わりが変わっていった教師も登場します。

さらに、驚くのはセクシュアル・マイノリティの人で自殺を考えたことがある率が、通常の3倍以上というデータです。性の規範がきつい社会では、セクシュアル・マイノリティの人たちがとても生きづらいことが示されています。

同時に、教師や周りの人たちから「存在を肯定することば」をかけられたことで、当事者が「救われた」と感じ、理解ある大人からの働きかけで、自分がセクシュアル・マイノリティであることをカミングアウトできたこと、しだいに自分らしく生きていく経験も語られています。

**第三部「つながる—親と教師のための支援情報」** 家庭や学校、地域での相談の場や支援情報、つながることで理解し支えあえる様子が紹介されています。セクシュアル・マイノリティであることは、自分の意思で選んでなることでも、途中で変えられることでもありません。

このDVDは、セクシュアル・マイノリティのみならず、さまざまな立場に置かれる「見えないマイノリティ」の存在に気づく教材になっています。



DVDを鑑賞しているところ

は自分を男の子と思っていたのですが、だんだんと違うところがわかってきて、小学校の高学年になると、女子トイレに行くのがむずかしくなりました。小6の時にトイレを我慢して教室でお漏らしをしてしまい、それ以来、なるべく水を飲まずトイレに行くのを我慢しました。その結果、腎臓が悪くなり血尿が出ました。親は心配して、病院に連れて行きましたが、どこも悪くないと言われました。その後、中

学・高校で不登校になって引きこもりました。体は女性だけど自分では女性とは思えない、男性と自認していたのです。でも、体の性と心の性が一致しないとばかりと知ったのは、17〜18歳になってからのことです。その後、住む国を変え、結婚はしたくないが子どもは欲しい、との思いから、25歳のときに子どもを授かりました。自分が感じる体と性についての

違和感が変わらなかつた。身体の性と心の性が一致しないことを、トランスジェンダーというらしい、と知ったのは、30歳を過ぎてからです。翔子 私は小さい頃からバレエを習って、ヒラヒラのスカートが大好きな女の子でした。性自認も性表現も女で、女の子である自分が大好きでした。女子高に入り、女の子だけの空間がとても楽で、ほっとすると感じていました。その頃、クラスメートが好きになり、高

校生のときに、女性が好きだと自覚しました。その後、自分自身、髪を短く刈上げて、女性が男装するバーで仕事をしました。女の人を好きだけど、「男っぽい私は、女っぽい女の人を好き」でした。つまり、「女は女らしく、男は男らしく」といったジェンダー規範にとらわれていました。DVDのなかでも、性表現も多様だとありますが、自分自身を振り返っても、女の子っぽい性表現から

## セクシュアル・マイノリティ

- ・身体的性別が典型的な男女でない人
- ・生物学的な性別と自認する性別が違う人
- ・恋愛対象が異性でない人、異性だけではない人
- ・性的な欲求がない人 など

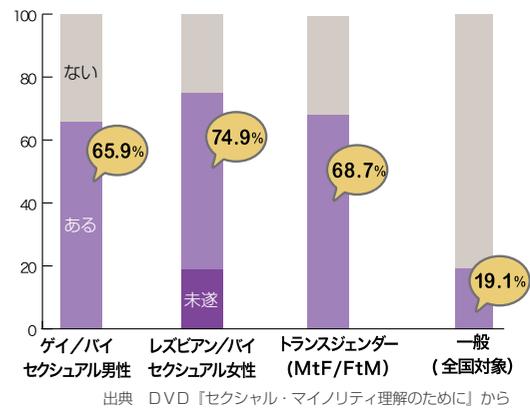
## LGBTI

- L レズビアン：本人の性自認が女性で恋愛対象も女性
- G ゲイ：本人の性自認が男性で恋愛対象も男性
- B バイセクシュアル：本人の性自認に関わらず、恋愛対象が男性・女性のどちらも
- T トランス・ジェンダー：生物学的な、戸籍上の性別と本人の性自認が異なる人
- I インターセックス：生まれたときの生物学的な性別が典型的ではない。今は、性分化疾患（DSD）と呼ばれている。

“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク  
原さん・宇佐美さん作成

## 自殺を考えたことがある

(レズビアン/バイセクシュアル女性に関しては自殺未遂も含む)



宇佐美翔子さん

“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ全国支援ネットワーク副代表。ラジオパープル パーソナリティ。

## 参加者から

( )は登録団体名等

青木良子さん (柿の実会)

セクシュアル・マイノリティについて初めて当事者の生の声を聞き、考えさせられた。特に小さい子どもの頃に周囲から自分を否定されるということは、どんなにつらかったことだろうと思った。

清水時絵さん (Smile 研究会)

話を伺いながら、自己承認と他者承認について考え、生まれてから育つ間のまわりからの承認がいかに大切かと思った。

広木貴子さん (ななかまご)

自分を写す鏡がないと、他者との関わりの大切さを改めて感じた。カミングアウトすることが自分のアイデンティティを確立する一歩だったと思うが、それは長く苦難の始まりでもあるのだと思った。

岸本貴与子さん (ななかまご)

女子トイレに違和感を覚えて血尿が出るまでになった話には堪えた。子どもが自分の気持ちをこぼしに表わすむずかしさを知った。

堀口悦子さん

(千代田区男女平等推進区民会議委員、明治大学教員)

大学でジェンダーについて教えているが、学生のなかで「多様な性」の学生がいる。「ありのままの自分をみとめてほしい」という点では、マ



ミナ汰 (原美奈子)さん

“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ全国支援ネットワーク代表。支援制作導入などの活動に取り組む。主な訳書に『レズビアン』の歴史』など

男っぽい性表現、そして今の自分。一人の間をみても紆余曲折・揺らぐ場合があるのです。そうした時代を経て現在では、性の多様性は、生き方そのものの多様性だと思っています。

◆自分の性について、どのような思いを持ってきましたか？

ミナ汰 自分では他の人たちと同じだと思っていたけれど、周りから「変だ、おかしい」と

言われ、からかわれ、差別され、叱責されてようやく自分を「普通でない」と見る社会の眼を自覚するようになりました。実際、文部省(当時)が95年頃まで、同性愛は「性非行」の一種と位置づけていたという社会的背景がありました。

自分のよさをわかっているはずなのに、周りから承認されないという自信がもてない。いつも「女の子だけ」「男だったらよかったのに」という条

件付きで見られていました。そして、自分のからだがとてもなるのかわからない不安がいつも付きまといました。子どもを産んで家族をもつても、セクシュアル・マイノリティになんて？と、無条件に承認されることはない。そのままでもいいということがあったのがつらかったですね。

翔子 子どもって、「間違い探し」が大好きでしょう。「仲間はずれはどれでしょう」とか。私はシングルマザーの母と二人暮らしだったから、ずっと、「家族とはこんなもの」「普通はこうだよ」という「普通」に当てはまらなかつた。当てはまらなさをずっと積み重ねてきた感じがします。陽のあたる道を歩いている気がしなかつた。どこか自分が仲間はずれなような気がしていました。

それに加えて、好きになる対象が、「みんな」と違う。自分に似たような立場の人を目にしたこともないし、異性愛者の輪に入れない、自分が居てもいい場所が見つけれませんでした。だから、現実社会に生きていく実感がなくて、いつ死んでもいいと思っていました。将来のことなど、描けなかつた。進学や会社就職しようなんて考えられませんでした。

## ◆親との関係は？

翔子 母親は私に異性愛の女の子として人生を生きていることを期待していました。でも、自分では期待に添えるはずがないと思っていた。また、つらさを親にわかってもらいたくてリストカットもしました。わざと包帯を巻いた手首を母親



中国からの留学生・洪丹（こうたん）さんと厚美哲也さん。ともに明治大学大学院情報コミュニケーション研究科 博士前期課程2年

に見せた。でも、何も言われず、娘の悩みに気づかないふりをした。それを見て、話すのをやめようと思いましたが、つらかったです。

◆生きづらさを変えたこと、生きる気持ちを支えてきたことは？

三ツ汰 「人と違う」とは感覚ではわかるけど、語ることをばもっていかなかったですね。体が不調になって治療を受けた10代前半に、整体師のおばあちゃん先生が、「この方は大丈夫ですよ」と、母親に言ってくれた。そのちよつとした声かけが、支えになっていたんだと今、改めて気づきましたね。翔子 学校生活では、仲良しでも、「ホモ、レズ」ということばなら気軽に使ってたからかう。この世の中に、笑いのものにしていい人など一人としていないのに。だから、日頃から、誰もが当たり前に、条件などなしで生きていけることが大事！

そうしたメッセージを伝えることが、つらい思いを抱える子どもを支えること、子どもを加害者にしないことだと思います。

◆将来の心配は？

翔子 現在、パートナーがいますが、まだまだ同性同士のパートナーへの社会の理解も社会保障の制度もありません。男女なら当然のように使っているパートナーや事実婚のような関係を表わすことばを私たちが使ってもなかなか理解されない。また、「男の芸能人だったら誰がタイプ？」など、日常会話でも、同性が好きだと周囲の人たちに感づかれられないような嘘を考えている。二重生活をしているような感じがあります。

三ツ汰 確かに、不便さを感じます。同性だと結婚もできないし、保険の受取人にもなれない。事故で入院しても、病院や警察からは親族でないと連絡も来ない。人生でもっとも近いところにいる人なのに何とかしたいって思います。

◆これから望むことは？

三ツ汰 今、講演をすると、自分や親戚、友人がセクシユアル・マイノリティだという人が、会場の半分以上いることがあり

ます。実際に悩んでいる人はいらるし、皆、対等な関係を求めているように感じます。ただ、そうなるためには、自分の気持ちをさせる居場所、プライバシーを尊重すること、本音を言える安全な場を作る訓練が必要だと思います。家族、友人に対して、自分がセクシユアル・マイノリティだと言っていることは大事だけれど、本音で話した相手を攻撃しないコミュニケーションスキルやノウハウを、学校や職場でも取り入れていくことも大事ではないでしょうか？



左から谷口玲子さん、白石春美さん

方的な押し付けは少なくなっただけ、価値観そのものもがもつと多様であれば、すべての人が生きやすい。勉強とお金だけでない価値観がもつともつと尊重されればいい。安心できる関係もつくりたい。安心できるところで話す練習ができれば、訴え上手にもなります。私たちは、無条件にその人を承認する一人ひとりになっていきたいですよ。



堀口悦子さん



左から 青木良子さん、清水蒔絵さん、広木貴子さん、岸本貴与子さん

イノリティとマジヨリティは、実はつながっているのではないかと感じることがある。

谷口玲子さん

（アムネスティ・インターナショナル日本）アムネスティの映画祭でも『ハーウェイ・ミルク』というイノリティの権利を扱った映画を上映した。性的マイノリティの方の問題は、無縁社会といわれる今の日本社会が抱えている課題につながる。これを解決することが日本社会全体の問題を解決することになるのではないかと。

白石春美さん（神保町応援隊）

DVDはとてもわかりやすかった。初めてセクシユアル・マイノリティについて学んだが、実際に悩んでいる人は多いと思う。まだまだではないけれど、女性同士の結婚が認められるような、そんな社会が来る気がする。

洪丹（こうたん）さん（明治大学大学院生）日本に来て、セクシユアルティに関する研究に接した。「性の多様性は生き方の多様性」という宇佐美さんのことばが好きになった。人間は皆平等、他者を尊重しなくては。

厚美哲也さん（明治大学大学院生）

セクシユアルティの研究をしている。情報は飛躍的に広がっているが、当事者と非当事者のコミュニケーションがもっと双方向になっていけばいいと思っている。

子育て中の利用者に聞きました

日頃、MIWをご利用くださっている方々に、今、子育てや仕事と家庭生活の両立などに関して、ほしいと思っている情報や知識、ご意見を伺いました。育児休業中、専業主婦、子育てがひと段落したら仕事をと考えている女性やこれから子育てをとと思う男性など、さまざまなライフスタイルの方たちです。

こんなこと  
できたらいいな!  
あったらいいな!

今、育児休業中で、あと数ヶ月で復職します。やっぱり、復職にあたって不安があります。**仕事と子育ての両立についてのコツ**とか知りたいな。

復帰したら、職場の人たちの理解を得られるかが心配。**職場のコミュニケーションをうまくする方法**を身につけたい。

子育ての悩みを**安心して話せる場**や**具体的に役立つ情報**がほしい。

講座やイベントはウィークデイよりも**土曜日**にやってほしい!  
託児つきで。

在住の方のみ託児サービスがあります(有料)

MIWから

子どもと一緒に**音楽鑑賞や映画会、お話会**などを開いてほしい。

子どもとの**コミュニケーション**や**子育てを楽しむ知恵**も知りたい。他の人とも情報交換したい!

昨年11月に実施したパープルリボンコンサートでは、お子さまと一緒に楽しんでいただきました

MIWから



左から福島深雪さん、石井琴恵さん、小柳津 由依さん(その他、ご協力くださった皆さん: 中村絵美子さん、千葉千里さん、宮野公栄さん、山口彩さん、秋元亜弥子さん、高柳美紗さん)

子どもと一緒に**街歩きや散歩、ポディワーク**などもしたいなあ。

男性の利用者からは…

育児をする男性は増えてきていると思うし、やってみたい人も多い。でも、まだ、地域で育児をする環境が整っていない。たとえば、男性がオムツを換えられるトイレ。**もっと、やってみたくなる環境・雰囲気**ができるといい。

皆様からいただいたご意見も参考にしながら、MIWの来年度の講座・イベントを企画しています。たとえば、色を通して自分自身の気持ちを知ってコミュニケーションを豊かにする「子育てを楽しむカラーセラピー」や「子育てと自分探し」をテーマにした事業。職場でのコミュニケーションやアサーティブトレーニング(相手を尊重しながら自分の気持ちを率直に表現する方法)について学ぶグループワークを計画中です。また、パープルリボンキルト(P 12 参照)と一緒に作りながら、安心しておしゃべりできる「リボンカフェ」を毎月実施する予定です。チラシやメールでMIWの事業・イベント情報を無料で送付しています。ご希望の方は、MIWまでどうぞ。また、MIWのホームページ(<http://www.city.chiyoda.lg.jp>)もご覧ください。

来年度、千代田区男女平等推進行動計画(第4次)を策定します。男女共同参画をすすめるために、「あったらいいな! こんなことどうだろう?」といったご要望やご意見をお待ちしています。

あて先 国際平和・男女平等人権課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1  
メール: kokusaidanjo@city.chiyoda.lg.jp

現在、MIWの登録団体は33。登録団体の皆さんに、グループの活動について書いていただきました。

## 登録団体

### 千代田区女性史サークル 地域の女性たちの歴史を聞き書き

#### ◆歴史のなかに埋もれた女性の掘り起こし

私たちは、歴史のなかで、スポットを当てられることがほとんどなかった女性たちの生き方や考え方を掘り起こしています。とりわけ、千代田区の地域で、生活をしていたり、仕事に従事したり、さらに、学校で学んだりした女性たちなどを対象としています。そして、性別にとらわれることなく、人として生きやすい社会をめざす視点を基本にすえて、活動しています。

サークルは2000年から始まりました。千代田区の事業として発刊された『千代田区女性史』（ドメス出版2000年3月刊）の編纂にたずさわった仲間たちが新たなメンバーを得てたちあげました。MIWのミーティンググループで、月に1～2回定例会をもち、地域の方からご自分の歩まれてきたお話を伺って聞き書きとしてまとめたり、テーマを見つけて研究をしたりしています。生身の体験を語っていただいた聞き書きは、35編となりました。また、千代田区と共催で、「与謝野晶子にみる現代」「番町皿屋敷」を現代の女性が解く～江戸の女性の生き方～「篤姫と、その後の大奥の女性たち」の講演会を催しました。それらの活動の記録として『時代（とき）を駆ける』（2001年第1号発刊）を発行しています。

女性史を研究しているグループが東京近辺にもたくさんあり、2、3年ごとに情報交換のための連絡会が催され、参加したりしています。

#### ◆10年間で冊子『時代（とき）を駆ける』は5冊

2010年11月25日に『時代を駆ける』第5号を発行しました。A4版、並製、紫色の表紙で117ページの冊子です。聞き書きとしてまとめた「疑問がわたしの原点」に登場する竹田写真館は2010年の秋に閉館となり、竹田靖子さんのこれまでの人生を語っていただいた聞き書きは貴重なものとなりました。

さらに『千代田区女性史』の専門委員であった江刺昭子さんをお願いして「六十年安保と樺美智子とわたし」と題した文をお寄せいただきました。当時、大学や高等学校の学生として、労働者として、あるいは一国民としてデモに参加された方、あるいは、千代田区内での多くのデモを見聞きされた方にとっては、あの時代の空気を各人各様に蘇えらせられ、そのときの自分に立ち返って、これからを見つめるきっかけになるものではないかと思えます。

テーマを追った研究として、明治へ時代が変わる頃をどのように過ごしたかを、教育者に焦点をあててまとめた「幕末・維新の移行期を体験した千代田区ゆかりの教育者たち」、東京女学校に在籍した生徒の学びの足跡を追った「東京女学校―雑感 The Story of My Life ―Student Essaysより」、大正期の女性たちの活動のひとつである「花の日会」を取り上げた「大正期の華やかな活動『花の日会』―『婦女新聞』の記事から―」を掲載しました。埋もれていることからを当時の新聞や雑誌などの資料から地道にまとめました。



できたばかりの『時代を駆ける』第5号を手にして

全国規模の会である「全国女性史研究交流のつどい」や「日本女性会議2010 きょうと」に参加した報告は、これからの活動へ多くの示唆を含んでいます。

講演会を開催したり、活動の成果を研究誌にまとめて発行することにより、千代田区という地域の女性史を多くの人に伝えられたらと思っています。そして、仲間を増やせるように、これからも活動を続けていきたいと思っています。



「篤姫と、その後の大奥の女性たち」の講演会で



冊子『時代（とき）を駆ける』

## パープルリボンプロジェクト2010



ドメスティック・バイオレンス (DV) や虐待など、暴力のない世界を望む気持ちを表すパープルリボン。今年度もMIWでは、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間にパープルリボンプロジェクトを実施しました。今年初めてパープルリボンコンサートを開いたほか、DVや子ども・女性の人身売買に「NO!」を訴えるTシャツやMIWのパープルリボンキルトを展示しました。また、区

内企業のザ・ボディショップと一緒に福祉まつりに参加し、パープルリボンをアピール。さらに期間中、多くの方が、パープルリボンやキルトのパーツ、キルト用のハギレなどをお寄せくださいました。

これまでに出来上がったパープルリボンキルトは大小合わせて29。MIWでは各種イベントでの啓発展示用に無料で貸し出しています。どうぞ、ご利用ください。



人身売買、DVなどをなくし、非暴力をアピールするTシャツやパネル展示 (展示協力 ザ・ボディショップ、東京YWCA、NPO法人全国シェルターネットワーク、歩こうよむらさきロード実行委員会、パープルアイズ)



パープルリボンコンサート (11/13)の様子。後ろは2009年度のパープルリボンキルト



福祉まつり (10/23)での様子

### MIW 相談室

MIWの相談室では、夫婦関係、男女の生き方・働き方、セクシュアル・ハラスメントや夫婦や親密な間柄での暴力などについて相談を受けています。相談は面接でも電話でも可。予約制になっています。(区内在住、在勤、在学の方対象)

電話での予約 **TEL 03-5211-4316**

(無料・女性カウンセラーが担当します)

◆相談日時 4月から土曜日が増えます ※ (英)=英語での相談もできます。

水曜日	金曜日
第1・3・5 10:30～15:30	第1・3・5 10:30～15:30 (英)
第2・4 17:00～21:00	第2・4 17:00～21:00 (英)
木曜日	土曜日
第1・3・5 17:00～21:00	第1・3・5 10:30～15:30
第2・4 10:30～15:30	第2・4 10:30～15:30 (英)

### MIW インフォメーション

#### 情報交流会 MIW 千夜一夜 77夜

「遺したいことば 一私のモノ、思い、関係を整理する」

日時 4月28日(木) 18:30～20:00  
 場所 MIW 交流サロン (区役所10階)  
 ゲスト 町田美千代さん (女の空間 NPO スタッフ)  
 女性向けの交流会です。

#### MIW ビデオサロン&カフェ

日時 4月15日(金) ①14:30～ ②18:30～  
 「ダンシング・ウィズ・ライブズ 命と舞いながら」  
 コネクテッドアース制作/2008年/71分/カナダ/監督 種間恭子  
 阪神淡路大震災で家族全員を亡くしたダンサーが、ニューヨークで力強く生きる10年を追ったドキュメンタリー。



## 千代田区男女共同参画センター MIW (ミュウ)

所在地 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所10階  
 交通機関 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車、徒歩5分  
 開館時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後9時 土曜日 午前9時～午後5時  
 休館日 日曜日、祝日、年末年始  
 TEL 03-5211-8845 / 相談予約受付 03-5211-4316 FAX 03-5211-8846  
 E-mail miw@city.chiyoda.tokyo.jp  
 URL http://www.city.chiyoda.lg.jp (MIWで検索してください)

編集後記 ■報道でアジアの児童買春のことを知った人は大勢いたことでしょう。この情報に接し、タイやカンボジアを訪れ、児童買春の実態に接し、「子どもを売らせない! 買わせない!」行動を始めた村田早耶香さんの取り組みには、限りなく尊いものを感じました。(H)